

貫門は2本の柱を立て、上方をくりぬき、貫を通した門です。この型の門は、島主の許可がなければ立てられないもので、稲子泊にある貫門は網切吉右衛門の戦功により許可され立てられたものです。

吉右衛門は稲子泊の漁家に生まれました。慶長2年（1597）豊臣秀吉の朝鮮出兵に際し、島津軍の水手（船員）として従軍し功績を立てました。

南種子村沿革史に「御沙汰書を害虫に侵され其実績を詳にすることは能はざれども口碑によれば、我が種子島に於いて作りたる木船に乗り朝鮮興善島に押しかけたとき、敵、明軍は金網を張り防禦したが我が水手は能くそれを切り破り軍を進めたりぞ」との記述があります。

帰島後、その功績を後世に伝えるため、島主より代々、貫門を立てることを許可され、さらに網切の名と帯刀を許されることになったといわれています。莖永の小田家も許可されていますが、残念ながら現存していません。



貫門